

ロボットが拓く潤いある生活、温かい医療

Robots bring about mellifluous life and warm medicine

目的／ゴール

ロボットと人間との相互作用により生まれる3つの効果(生理的、心理的、社会的)のうち研究例の少ない心理的・社会的効果を定量的に解明し、ロボットの新しい応用を探る。

To investigate the effect of psychological and social aspects of the human-robot bond and to explore a new application field of robots.

背景／問題設定

超高齢化社会を迎え、増加する社会的弱者に対する心身のケアが求められている。一方、産業応用を脱したロボット技術は人との共生に向かっていている。このニーズとシーズの合流地点に新しい分野が期待されている。

Care for the social weak is demanded in the super-aging society. Meanwhile the robot technologies are going toward living with human. These needs and seeds create a new field.

戦略／方法

ロボット介在活動・介在療法を「ものめずらしさ」から「たしかなもの」へと脱皮させるため、その効果を科学的に解明し、実践のガイドラインを作る。

The robot assisted activity / therapy (RAA/RAT) should grow out of “curiosity” into “a firm basis”. For that purpose we investigate scientifically the human-robot interaction and propose the guideline of a fieldwork.

活動計画／予定成果

特養老人施設、老健施設、入院病棟、リハ施設等においてRAA・RATを実施してデータを積重ね、本会年次会議、部会学生研究発表会(毎年2月)、研修会、研究会を通じてこれらを共有する。さらに部会アニュアルレポートとして記録を残し新分野として確立する。併せて社会的な仕組み作りも模索する。

Data taken from RAA/RAT practices at the fieldwork institution will be accumulated and owned jointly. Those are discussed at the student session (every February), workshop, and technical meeting held by RAT Tech. Comm. and also at the SICE annual meeting. In addition, proposal of the social systems for RAA/RAT comes in sight.

補足

- 1) アニマルセラピーは重要な比較対象の一つであり部会にはこの分野の専門委員も参画している
- 2) 厳密にはセラピーは医療用語であるが部会では広くとらえ治療目的を伴わない場合も含める
- 3) セラピーに限らず、メンタル要素を含むロボット介在教育、ロボット介在診断等も視野に入る

部会長: 帝京科学大学 永沼 充 (naganuma@ntu.ac.jp)

メンバー: 浜田利満(筑波学院大), 香川美仁(拓殖大), 橋本智己(埼玉工大), 横山章光(帝京科大), 水川真(芝浦工大), 木村龍平(帝京科学大), 石田健蔵(早稲田大), 赤澤とし子(北里大), 柴田崇徳(産総研), 渡辺一郎(富士通研), 米岡利彦(社会福祉法人美鈴会), 草野修輔(国際医療福祉大三田病院), 高倉保幸(埼玉医大総合医療センター), 矢後長純(愛国学園大), 花園誠(帝京科大), 小川家資(帝京科大)



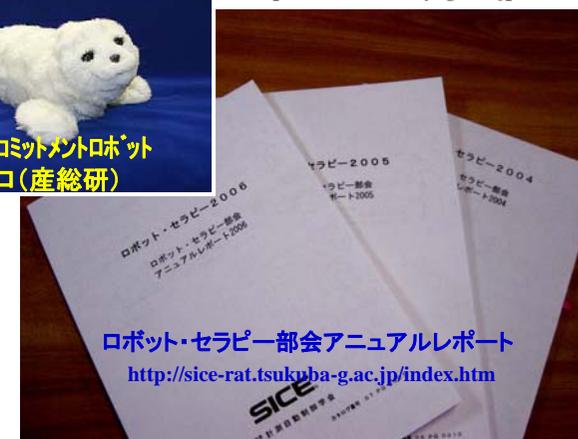
ロボット介在活動

(社)日本福祉用具供給協会
フォトコンテスト経済産業大臣賞受賞
<http://www.fukushiyogu.or.jp/>

<http://paro.jp/index.html>



メンタルコミットメントロボット
パロ(産総研)



ロボット・セラピー部会アニュアルレポート
<http://sice-rat.tsukuba-g.ac.jp/index.htm>